

会議録

会議の名称	西東京市文化財保護審議会 平成27年度第1回会議
開催日時	平成27年5月15日（金曜日）午前10時から正午
開催場所	下野谷遺跡（視察）・郷土資料室（会議会場：第4会議室）
出席者	委員：鈴木委員、石井（則）委員、石井（正）委員、近辻委員、都築委員、刃々良委員、山下委員 事務局：岡本課長、吉田係長、阿久津主事、亀田文化財保護専門員
議題	議題1 社会教育課長挨拶 議題2 報告事項 （1）西東京市文化財保存・活用計画について （2）下野谷遺跡の指定について （3）登録文化財制度の策定スケジュールについて （4）文化財事業実施報告 ・埋蔵文化財事業 ・その他の文化財事業 議題3 視察に関する意見交換 議題4 その他 （1）次回審議会の日程について
会議資料の名称	資料1 西東京市文化財保存・活用計画策定スケジュール（平成27年度分） 資料2 官報告示（下野谷遺跡） 資料3 下野谷遺跡国史跡指定記念式典・講演会のまとめ 資料4 埋蔵文化財調査一覧 資料5 文化財事業一覧（平成27年2月27日～平成27年5月14日） その他の配布資料 下野谷遺跡リーフレット 郷土資料室パンフレット 「西東京の教育」 平成27年5月号 「東京の文化財」 第119号
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input type="checkbox"/> 会議内容の要点記録
会議内容	
<p>議題1 社会教育課長挨拶</p> <p>○事務局： 本審議会の皆様には、西東京市の文化財について専門的な見地から精力的にご議論、ご検討を頂き提言等を頂いていると伺っている。その議論の積み重ねとして、本年3月10日の下野谷遺跡の国史跡指定があったものと感謝申し上げる。本日もよろしくお願いしたい。</p> <p>議題2 報告事項</p> <p>（1）西東京市文化財保存・活用計画について</p> <p>○事務局： 皆様方からの建議を受けて昨年度から今年度にかけて文化財保存・活用計画に取り組んでいる。昨年度は委託事業者がこれまでの現状等を確認し、今後の方向性の概略についてまとめた。今年度は策定委員会により検討する。進捗状況を文化財保護審議会に逐</p>	

次報告したい。

会長：

意見、質問等がありますか。無いようなので、次の議事について説明をお願いしたい。

(2) 下野谷遺跡の指定について

○事務局：

資料2の官報告示をご覧頂きたい。3月10日に国史跡として指定された。下野谷遺跡の重要さが評価され、ここに至るまでの審議会でのご意見、ご指導、また、これまでの丁寧な取りまとめの積み重ねが指定という結果に結びついたと認識している。今後、追加指定に向けて、近隣住民の皆様へ本事業の重要性をご理解とご協力をお願いしたいと思っている。

5月12日に地域住民を対象とした説明会を実施した。ガイダンス施設を希望される声がある一方、自分の財産について制約がかかるので、すぐには納得できない等の意見があった。今後、質問や対応に応じ、丁寧に対応してまいりたい。

○会長：

下野谷遺跡が国指定になって、これからも更に順調に進めてほしい。
では、次の議事について説明をお願いしたい。

(3) 登録文化財制度の策定スケジュールについて

○事務局：

これまでも登録文化財については、皆様方にご検討をいただき誠にありがとうございました。現在、市の文化財全体の保存・活用計画策定に取り組んでいるが、本計画に登録文化財についても位置づけをし、来年度に条例改正などをし、制度化してまいりたい。

○会長：

予定としては1年先になったという事だが、それだけ時間があるので検討して行きたいと思う。

(4) 文化財事業実施報告

○事務局：

以前の審議会から今までの文化財の事業について、説明する。

・埋蔵文化財調査（資料4）

下野谷遺跡指定候補地の範囲をどのようにするかとした調査が2件、他には都立公園と東伏見稲荷神社遺跡の境を試掘調査した。

・文化財事業一覧（資料5）

今回は下野谷遺跡が国史跡指定になったことに伴い、行った事業が主である。今年度から学校支援事業として、教育課程での郷土資料室や下野谷遺跡の活用について、校長

会で説明した。また、新たに市職員の研修も実施し、市全体として下野谷遺跡を盛り上げて行く方向性で動いている。

○会長：
何か質問等があればお願いしたい。

近辻委員：
西東京市文化財保存活動計画の件だが、実際に姿を現すのはどのタイミングなのか。委員会の正式名称は何か。

事務局：
文化財の保存活用計画は、今年度中にとりまとめる予定である。また、西東京市文化財保存管理計画策定委員会において、下野谷遺跡管理計画について位置づけてまいりたい。

近辻委員：
その管理計画のスケジュールは28年度、29年度か。

事務局：
スケジュールは未定である。保存活用計画の中で議論があるとする。

会長：
文化財保存活用計画と下野谷遺跡の管理計画が同時並行との考え方でよいか。

事務局：
保存活用計画を策定後、下野谷の管理計画の議論に入る予定である。

議題3 視察に関する意見交換

石井（則）委員：
遺跡を視察したが、下野谷遺跡の一部である。将来もっと広く、例えば、いま掘っている所を更に何年計画で土地を買い上げて、整備をしていただけたらと思う。やはり都内でこれだけの遺跡を、せつかく西東京市が史跡指定にまで持っていったのだから、東京で縄文の遺物を見ることが出来るようにしたほうがよい。東京都埋蔵センターに来た様々な方々を案内したが、縄文時代早期の竪穴住居を御案内したら「これが日本の最初の住居か」と驚いていた。10年計画ぐらいで整備計画と委員会を立ち上げ、柔軟な考えで、予算を付け、反映するところは反映させて進めれば、恐らく世界の人が西東京市へ集まってくると思う。

会長：
報告事項はここまででよろしいか。では、本日の視察に関する意見交換をしたい。

(石井（正）委員 退席)

会長：

国指定ということで一段落しているようだが、石井委員のご指摘のように、課題は山積である。いかに順調に進めていくための提案や、ご意見をいただきたい。

近辻委員：

今日、視察してきたが、一般の市民の感覚から言うと、「この下にお宝が眠っている」といきなり説明したってピンとこない。将来的には博物館が出来て、そこで見ればわかるようになるとは思いますが、とりあえず素人アイデアだが、現在ある竪穴住居のミニチュアなどは取り払って、縄文とは関係ないかもしれないが、「物見やぐら」みたいなものを造り、そこへ上がって景色が見られるような、面白い物を作らないと、現状で想像するのはちょっと無茶な話だと思う。その様な事も考えてもらえればいいのかと思う。

夢々良委員：

私は全く逆で、例えば歴史的なものというのは、その当時の何かが必要であって、現在のものは必要ではないという気がする。従って復元であれば当時は復元することがメインで、それに対して子供達へのアプローチが肝心だろうという気がする。現在どれだけ価値があるのかということ具体的にはわかるような展示の仕方が大事だと思う。例えば当時の様子を再現するだけでなく、体験が出来ないかとか、もっと郷土資料室に積極的に訪れる道筋を考えられないか、例えばバスを借りて連れて来るなど。また、社会科の先生達に情報提供していかないと、ただ史跡になっただけ、という気が私もある。市の全体的な熟成という図をどう描くのか、その中であそこをどう活用するのかが出てくる。文化、歴史を大々的に売りにするという手もあるだろうと思うし、それらを総合的にやるには役所の力だけじゃダメだと思う。もう少し知恵をあわせた総合的な大きなプロジェクトにもって行かないと、部分部分を食い繋げていくだけで終わってしまうような気がする。委員から視察時に看板の必要性について声があった。今の状況ではやむを得ないにしても、これから人を呼ぶのであれば、どういう風に人にそれを認識させる、それから、駅からのご案内など総合的なものが出てこない、活用されないような気がする。また、具体的な点では、今日は大変暑かったが、日陰が全然ない。だからその辺のところ、トイレの必要性や、乳母車を置く場所という風にニーズに合わせた総合的な計画を立てていかないと、「あそこにあります、作りました。」で終わってしまう。それを懸念している。

都築委員：

私も同感である。当時のものを再現するというのは良いと思う。当時無いものは作ってはいけないと思う。一番大事なのは景観をそのまま保持することで、余計な建造物は作らないほうがよい。1つ発見だが、現地から夕日、日が沈むの見える。そういう景観を大事にすべきだと思う。国指定なので建物の高さ制限が出来れば景観をうまく保つことが出来る。せっかく国指定になったので周りの景観もやっぱり保持していかないといけないと思う。両方の土地をうまく活用・整備して、何かしらの説明がその場所にあった方が良く思う。順次具体的に決めていき、少なくとも今出来ることを整備し、建築規制みたいなものを他の部署と連携して行う。また、保護柵をするなど景観を保つことをした方が良く思う。

会長：

東京都の景観条例・景観計画に歴史的景観という指定を受けると、恐らく100メートル程度景観連結範囲になり、そうなれば相当な規制の広がりを持つことになるので、制度的なものも含めて検討したら良いと思う。

山下委員：

個人的な意見だが、私自身がその下野谷遺跡も縄文土器も縄文文化も、自分では思い違いしているところに土台があったものだから、かなり振り回された。ただこれは正直言うと私だけの問題ではなく、かなり昔に学校教育を受けた人は、恐らく縄文土器、縄文文化というものを、随分、間違ったり、曖昧な形で教育されたと思っている。今後は正しく縄文文化、縄文土器を理解するためには情報の定期的な発信が必要だと思う。国指定になったことで市も動いているようだが、地に着いたものを定期的に出していくことがすごく重要だと思う。是非、毎月1回でもいいから情報を発信してもらいたい。

石井（則）委員：

文化庁からは担当職員を置くよう話があるのではないか。また、5年、10年かけて市の核となる組織をうまくつくらないと良い整備計画などは出来ない。世界の人がここに来るといふ大きな目標を持って組織を考えてもらいたい。やはり、東京にある縄文時代の史跡なので、これは大変なことだ。それが日本一の縄文集落の史跡として活用し、ゆっくりとやってもらいたいと思う。

都築委員：

市の職員で学芸員を募集している。体制は係の方も出来ましたのでかなり前進したと思う。今後、市の学芸員が1人採用されて正規職員になるだろうが、出来れば1人だと大変だと思うので、組織固めをしてほしい。職員体制をしっかりと、事務職は事務的なことで力を発揮していただいて、専門職は学芸員として専門的な立場での仕事ができる様をお願いしたい。

夢々良委員：

先ほど視察した所に発掘している場所があり、あれも早く手に入れたいといけない。先ほど、ゆっくと計画立てて良いよという話があったが、ゆっくとやってもいいところと、早くやらなくてはならないところがあるので、その辺をうまくアレンジしながら手をつけていってほしいと思う。

石井（則）委員：

都築委員の言う通りで、しっかりと学芸員を採用し、責任を持たせてやらせれば、東京を代表する遺跡なり博物館ができると思う。ゆっくと10年計画ぐらいでやってほしい。

会長：

他に何かあるか

多々良委員：
校長会の反応はどうか。

事務局：
個別で色々な提案を頂いた。

多々良委員：
それなら結構です。

石井（則）委員：
思い切ったことをやっていただきたい。市民の方も関係者もそれを望んでいると思う。それが良い結果になると思う。

事務局：
最後になるが、今配布した資料の赤バツの地点が先ほど視察いただいた発掘地点である。石井委員からご意見があったように、確かに整備計画はゆっくり、じっくり作っていった方が良くと思うし、そういう風にしか動けないと思うが、こういう直近の問題にどうやって対応していくかが、実はとても大きな問題で、多々良委員の発言の様に、すぐに鵜が置かなければいけない問題もある。不動産屋さんに1週間待っていただけませんので、そういった本当に直近の判断を、市役所の行政も責任を持っていく形を進め、先生方も御意見があれば頂きたいと思う。

会長：
今日たまたまそういう、途中経過のところ見せていただいて、やはり遺跡というのは、ああいう形の遺し方もあるのだと思い、芝生とかで覆うのはどうかと。もちろん保存の問題で覆わざるを得ないのかもしれないが、「ここにある」というのが、目に見える形であれば良いと思う。

石井（則）委員：
学校教育と社会教育と外国人教育が上手く噛み合わせれば成功する。

会長：
緊急の課題と長期的なもの、うまく取り集めながら進んでいき、保存・再生・活用ということに活かして使うということだ。西東京市の宝ということで活かしてほしいと思う。他に何かあるか。

議題4 その他

事務局：

(1) 次回審議会の日程について

今回で、今期の審議会は終了となる。この2年間文化財に係る諸課題について積極的に取り組んでいただき、また、ご提言をいただき感謝申し上げます。皆様から頂いた意見を積み重ねて得られた結果と感謝申し上げます。いただいたご意見を今後の文化財行政に生かしていきたいと思う。

以上